

JXTGエネルギーの長期ビジョンに向けた 技術部門の取り組みについて

JXTG エネルギー株式会社
取締役副社長執行役員

いわせ じゅんいち
岩瀬 淳一



日頃より弊社製品をご愛用いただきまして、誠にありがとうございます。
本日はこの誌面をお借りいたしまして、JXTG エネルギーの長期ビジョンに向けた、技術部門としての取り組みについてご紹介させていただきたいと思っております。

本年5月にJXTGグループの長期ビジョンが公開されました。JXTGホールディングスのオフィシャルサイトに掲載されておりますので、ご覧になった方もいらっしゃるのではないかと思います。グループ長期ビジョンは、取り巻く事業環境が大きく変化していく中で、2040年を見据えた社会シナリオを想定し、弊社グループの「ありたい姿」とその実現のための「事業の将来像」などの長期的な経営方針を示しております。グループ長期ビジョンは各中核会社の長期ビジョンそのものですので、ここではJXTGエネルギーとしての取り組みについて触れたいと思っております。

まず、前提となる事業環境変化の認識ですが、ご存知の通り国内の石油需要は毎年2%から3%の割合で減少し続けております。この傾向が2040年まで継続した場合には、内需半減となりますので、そのような状況も想定しておく必要があります。また、パリ協定の合意や国連採択のSDGs目標によりCO₂フリーエネルギーへの転換が加速していくものと思われます。その一方で、アジアを中心とする海外においては、エネルギー需要の増加に伴い事業機会が拡大することも想定されます。

このような変化の中で、JXTGエネルギーとして「エネルギー転換、モビリティ変革、社会システム変化、素材進化に対して、革新的な価値を創造・提供し続けていく」ことをありたい姿と定義しました。この実現に向けて、既存事業をしっかりと維持しながら、事業構造変革による価値創造、および低炭素・循環型社会への貢献に取り組む所存です。

次に、技術部門としてのエネルギー転換、素材進化、およびアジアでの事業機会創

出の取り組みについて、お伝えしたいと思います。エネルギー転換の核はCO₂フリー、いわゆる再生可能エネルギーへのシフトと考えます。太陽光、風力、地熱などのエネルギーをコスト競争力のある形で生産し、運搬し、必要とされる地域に供給することに関しては、各工程で技術課題も多く残っておりますが、実証実験的なプロジェクトへの参画を含めて意欲的に取り組み、商用化を目指したいと考えております。またエネルギーの運搬は水素が有望視されていますが、その運搬形態についても技術開発に取り組んでいきたいと考えております。

素材進化につきましては、これまで燃料として使用していた石油留分を化学品や潤滑油をはじめとする高付加価値品に転換することを目指しています。弊社では旧TGの川崎製油所と旧JXの川崎製造所（エチレンセンター）の組織を一体化し、ケミカルシフトを深化させる取り組みを進めております。また循環型社会への貢献としてプラスチックリサイクルについても今後取り組んでいく必要があると考えています。

アジアでの事業機会の創出については、弊社が国内の石油精製販売事業で培った技術やノウハウをさらに磨き上げたうえで提供することにより、安全で効率的なエネルギー供給を実現できると考えております。また、その実現のためにはデジタル技術の活用が不可欠です。デジタル技術の活用は無論あらゆる分野の事業領域で有効なものです。既存の石油精製事業においては、AIによるビッグデータ解析や予兆診断、高精度センサーの活用、高度な自動運転などの実現に向けて進めているところであり、少しずつですが成果が出始めていると感じております。

これらの革新的技術の導入は弊社単独で実現できるものではなく、多くの方々と連携して活動を進めています。また、その進め方においては、失敗することを恐れず、失敗を許容できるようなプロセス設計とプロジェクト運営が非常に重要であると感じています。

昨今の技術進歩は一層加速されておりますので、このJXTG Technical Reviewに掲載される内容についても、ますます進歩していくものと期待しているところです。

最後になりますが、私どもは既存事業の石油精製販売をしっかりと維持し、皆様に高品質で競争力のある製品をご提供し続けながら、大きな事業変革にも挑戦し、新たな価値を創造・提供していく所存です。今後とも皆様には一層のご指導とご鞭撻を賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。